

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名:長森北小学校

校長名:浅野 竜也

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	ワクワクして登校できる機会や自らの得意が認められる機会を増やし、魅力ある学校に努める。 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、個別最適な学び、協働的な学びについて研究を深める、	A	創立150周年事業の中で、全児童が思いの絵を描き陶板を作成し、残すことが出来た。また、運動会でのPTA種目や、記念式典での生演奏鑑賞会とわくわくできる機会を位置付けられた。 ICTを活用した個別最適な学びや、班での交流活動などの協働的な学びについて全担任が研究授業を通して学び合うことが出来た。	学校評価アンケートで、「学校に行くことが楽しい」と回答した児童が88.4%もいたことは、楽しい教育活動を多くしていただいている証である。 学習形態に工夫があり、班内で自分の意見を発表しているところもあった。これからは自分の意見を伝えることは重要、きちんと教育していただいている。	不登校対策委員会を活性化し、外部からの講師を招いたり、今ある活動の見直しを図ることで魅力ある学校づくりを推進する。 研推からのテーマに基づき、全担任による研究授業、研究討議を行う中で、個々の職員が授業改善を図るよう意識付けていく。 第4期岐阜市教育振興計画の「ぎふMirai's」にもとづき作成したカリキュラムの精選を図る。 今後も引き続き、地域の人材を活用し地域との良好な関係を維持する。 来年度、校区にある保育所が民営化されるにあたり、幼小の連携が適切に図れるようにする。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	創立150周年の機会を生かし、地域や保護者、中学校との関係強化を図る。 学校運営協議会を核に、地域の「もの・ひと・こと」を活かした教育活動を工夫して実践する。	A	航空写真では、卒業生や保護者にも声をかけPTAに協力を仰ぎながらクリアファイルを作成し、地域の方に配付できた。 5年生の稲作体験を始め、地域の方を講師にお招きし、多くの教育活動を実施することができた。また、昔の遊び体験など、地域の方々ともふれあう交流体験も大切にすることができた。	長森中学校も誘って航空写真を撮り、クリアファイルを地域に配付できたことは、地域と学校の距離も近くなりよい事業だった。 地域の力を活用してもらっているのはうれしい。農業体験で言えば、来年度は餅つき大会を再開させるなど、もっと活用してもらいたい。	引き続き、校長だよりによる教師力の向上を図ると共に、学校だよりで学校の状況や運営方針などを保護者に伝えていく。 緩やかな学年担任制を敷くことで一人ひとりの担任の負担を軽減し、学校体制で児童の育成に関わるようにしていく。
あたたかさど働きがいにあふれる学校づくり	面談や校長だより等を活用して、職員間の温かい関係づくりと、教師力の向上を目指す。 業務内容の精選を図り、児童の成長に気付ける職員集団を目指す。	A	年3回の定期面談と、コンプライアンスや事例研修、教育論などの校長だより(2月末時点で38号)を通して、同僚性を高め、教師力の向上が図れた。 毎月の校長発の学校だよりを通じて保護者に家庭での教育の依頼や学校活動の意図などを伝えて、周知を図った。 負担過多となった職員などの個々の事情のある職員に合わせた配慮を行い、7年生を中心に、全職員でカバーしあうことが出来た。	6年生を見ると小学校生活6年間学びは大きいと感じる。一生懸命指導していただいていることが分かるが、こういった研修を受けていることが分かり、一層安心した。 さらに環境を整え、子どもたちの育成のため、先生方には存分に力を発揮して欲しい。	引き続き、校長だよりによる教師力の向上を図ると共に、学校だよりで学校の状況や運営方針などを保護者に伝えていく。 緩やかな学年担任制を敷くことで一人ひとりの担任の負担を軽減し、学校体制で児童の育成に関わるようにしていく。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	命を守る訓練や保護者と連携した防災訓練により、災害や事故に対する幅広い知識と、自分の命は自分で守れるような判断力を養う。 引き渡しに際しては、児童の安全を第一に行う仕組みづくりを行い、保護者にも理解協力を依頼する。 いじめ防止の活動を進め児童理解とあたたかな関係づくりに努める学校を目指す。	A	年間5回の命を守る訓練を実施し、様々な想定元の訓練することが出来た。訓練の打合せや児童への事後指導を通して、訓練に関係した様々な状況を学ばせることで、自分の身の安全は自分で守る意識を育てている。 いじめ防止に向け、毎週の児童交流やいじめ対策監による職員への指導啓発や生徒指導による心のアンケートを確実に行うこと	児童の災害に対する意識は高いが、家庭ではさほど高くない。今後も家庭での意識啓発のため、学校でも力を入れて欲しい。 いじめの状態で、悪口や友達づくりでのトラブルが発端が多いと聞いた。学校で起きやすいことなので、これからもアンテナ高く対応して欲しい。 安心・安全部会のサポートにより、地域のくらしを守っていただいている。見守り隊の増員について、募集の仕方に工夫が必要である。	来年度も年間5回の命を守る訓練を実施する。それ以外に下校指導を再開させ、緊急対応マニュアルにある登下校時の災害対応を児童と保護者に周知していく。 児童がSOSを出しやすいように、緩やかな学年担任制と一部で教科担任制を導入していく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	安全点検の徹底によりけがの未然防止に努め、修繕や改修について、安全第一で関係機関と調整を図る。 PTA会費も含め、複数の人間でチェックしたり、現金を職員が扱う機会を減らしたりする。	B	学校医と連携してコロナやインフルエンザの拡大防止に向け、適切に学級閉鎖が行えた。 安全点検で危険を予知し、低学年トイレの扉で指の挟み込みを防ぐ器具を取り付けた。 漏水や給食室の設備の破損・不備を教育委員会に伝え、事故の未然防止に務めることが出来た。	骨折が数回あった以外は、感染症拡大防止の学級閉鎖も少ない、素早く対応できている。 日常の安全点検はもちろんだが、児童の安全を最優先して、改善点や市への要望を素早くしていただいている。校舎が古くなっているため、これからは丁寧に点検して安全につなげて欲しい。Aでもよいのではないが。	職員が現金を直接扱うことの無いよう、年度末の返金や集金が無いように務める。 卒業アルバムなど高額な支出については入札を行い、適正な価格で提供できるようにする。 老朽化に伴う修繕を適切に報告、修繕依頼すると共に、身近な危険を察知し、対応できる児童の育成にも務める。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/nagamori-n-e/>